

教育目標 「 知性豊かに 心さわやか たくましく生きる 」



志

学校だより

R5.1.16

四日市市立内部中学校 第 37 号

「新入生フシ授業」

1月12日(木)の午後、内部小学校と内部東小学校の6年生を本校に招いて、「プレ授業」を実施しました。本来ならば実際に授業を受けてもらうところですが、コロナウイルス感染症の状況に配慮して、授業と部活動を見学してもらいました。

5時間目に、3年生の担任の先生がガイド役となり、1・2年生が授業している様子を、廊下から見て回ってもらいました。



6年生のみなさんは、とても興味深く見学していました。また、1・2年生の生徒たちは、普段通りの意欲的で落ち着いた授業の様子を見せてくれていました。そして6限目は、思い思いの場所へと分散して、各部活動を見学してもらいました。こちらも、熱心に見学していました。



残念だったことは、授業や部活動を体験してもらえなかったことです。しかし、実際に中学校の様子を見てもらえたことは、良かったと思います。何事も、実際に自分で見て感じることは大切です。それでもやはり、体験することが一番大切です。

このことは、中学生のみなさんにもそのまま当てはまることです。2学期にはみなさんに繰り返しお話ししました。

昨今は、インターネット等が発達したおかげで、実際にその場所まで出かなくても、何となく雰囲気をつかむことができます。しかし、本当のことは実際にその場へ行ってみたり、感じたり、体験してみないとわからないものです。コロナウイルスの影響で、まだまだできないこともあります。可能なことはできるだけ体験してください。また、いろんなところへ行ってください。様々な文化や芸術に触れてください。やってみないと分からないことはたくさんあります。

中学生のみなさんは、大変忙しい毎日をお過ごしだと思いますが、工夫して時間や余裕を作って、様々な場所へ行ったり、様々なものを見たり、様々なことを体験したりしてほしいです。

話しが少し変わりますが、この「学校通信」を熱心に読んでくださっているある方より、次のようなご意見をいただきました。「内容は悪くないが、むずかしいし、端的に言って『くどい』」

そこで、今回は少し改善しようと思いましたが、やはりくどくなってしまいました。少しでも興味を持って読んでもらえるように、この冬休みの間に、私が「体験」したことを紹介します。

映画を5本観ました。本を7冊読みました。演奏会に5回行きました。ジョギングは毎日でトータル120キロ走りました。自転車やバイクにも乗りました。音楽もCD換算で15枚ほど聴き

ました。ピアノも弾きました。愛犬の散歩も毎日しました。年末の大掃除も頑張りました。

世の中には、美しい風景や芸術（音楽や美術、映画）、文学等の素敵なものがたくさんあります。世界は広く大きいです。様々な人がいて豊かにそして複雑に関係し合っています。また、多様な価値観があります。そうしたものを、「感じ取る力」「読み取る力」「手繰り寄せる力」等を身に付けるためにも、様々な体験をする必要があります。そのことを「学ぶ」と言います。

当然ながら「授業」や「部活動」も「学ぶ」場ですし、「遊び」の中にも「学び」はあります。学校では、仲間はもちろんのこと、先生とも一緒になって学んで欲しいですし、家庭や地域においても、家族や様々な人と関わり合いながら学び、「豊かな人」になってください。

本の紹介「**「空気」を読んでも従わない（生き苦しさからラクになる）** 鴻上尚史

この本には、「世間」と「社会」、そして「空気」のことが書かれています。この本を読むまでは「世間」と「社会」には、大きな違いはないように思っていました。そこで、辞書で調べてみると、「世間」は「人々が互いにかかわりあって生活している場。世の中」と、「社会」は「生活空間を共有したり、相互に結びついたり、影響を与えあったりしている人々のまとまり」と書いてあります。しかし鴻上さんの考えは違いました。またそれは、「日本」という国特有の考え方であるとも著されています。鴻上さんの考えは以下の通りです。

「世間」あなたと、現在または将来、関係のある人たちのことです。

「社会」あなたと、現在または将来、なんの関係もない人たちのことです。

正直に言うと、納得する部分とそうでない部分がありました。それは、私は「人間は『社会』つまり『多様な他者』と関わりながら生きていくもの」だと思っているからです。

しかし、読み進めるうちに「なるほど」と思うこともありました。私たちは誰でも、他者からの「評価」を気にしながら生きています。その他者の多くは、一般的な「社会」の人たちではなく、身も周りにいる「世間」の人たちだということです。そして、その世間がつくり出す独特な「雰囲気」のことを、鴻上さんは「空気」と著しています。別の言い方では「同調圧力」であるとも著しています。学校にも、多分にならした部分があると感じました。

本の内容について、敢えて詳しくは紹介しませんが、鴻上さんの考え方に触れることで、「生き苦しさ」や「生きづらさ」を感じている人が、楽になれると良いと思いました。

もう一つ納得したことは、「スマホをまだ人類はちゃんと使いこなせてないのです。私たちは、スマホという強力な呪文を覚えたばかりの魔法使いの見習いみたいなものです。」という言葉です。デュカス作曲の『交響詩「魔法使いの弟子」』は、ディズニーのアニメで有名ですが、呪文を覚えたばかりの弟子が、慣れない魔法をかけてどうなったかは、みなさんの知っている通りです。スマホを「社会」と適切につながるツールとして活用できるようになるためには、強い自分と適切な判断力が必要なように思います。

本筋とは違う内容も多く書きましたが、みなさんに是非一度読んで欲しい本の一つです。

